

2019年6月

【月報】

畜産センターの最新の研究成果を発表

6月14日に京都市内で京都府畜産技術業績発表会が開催され、当センターからは、京都産和牛について、おいしさの科学的評価とオレイン酸の育種価評価、ブロイラーへの粃米60%飼料給与実証についての研究成果と、碓高原牧場が取り組んでいる乳用牛の育成事業について5演題を発表しました。

京都産和牛のおいしさを数値化し、客

観的な評価を模索したことや、ブロイラー農場での粃米飼料給与実証を地域全体の取り組みとして実施したことに対し、参加者の関心が高く多数の質問や助言がありました。また、発表全般について助言者から「優れた成果がでており、今後の発展が期待できる」との講評をいただきました。今後も、積極的に研究を進め、成果の普及に取り組んでいきます。



当センター研究員の発表

畜産センター

【管内情報】

今年もアブトラップによる放牧場のアブ対策を開始

人が蚊に刺されるように、牛はアブなどに血を吸われ、ストレス、病気感染などの原因になります。牛舎での対策は、防虫ネットや殺虫剤の利用が主ですが、広い放牧場ではアブトラップによる捕殺が最も有効な方法です。

当场でも毎年、アブが発生し始める梅雨期の前に、放牧場にアブトラップを設置しており、今年は、6月中旬に昨年より2基増やして6基設置しました。

設置にあたっては、昨年に引き続き、国内のアブ研究の第一人者を農研機構中央農業研究センター（国の研究機関）から招き、トラップによるアブ捕獲で最も重要な設置場所の選び方などについて、現地指導を受けました。

トラップはアブがいなくなる10月末ごろまで設置し、定期的にアブの種類別

捕獲数等を調査します。

※アブトラップ:視覚的効果や炭酸ガスなどを利用してアブを誘引し捕獲する装置



畜産センター碓高原牧場

乳牛の飼料用スーダングラスを播種

スーダングラスは、夏期に栽培する牛用の粗飼料*の中でも栄養価が高く、牛が好んで食べる飼料作物です。

今年は6か所 320aのほ場で、当センターで生産した牛ふん堆肥を散布後、5月から6月にかけて播種を行い、約20トンの収穫を見込んでいます。

現在、生育状況は良好で、7月中旬から9月中旬にかけて順次、収穫し、ラップサイレージとして貯蔵、10月頃から当センターの約50頭の乳牛に給与し、高品質な生乳を生産していきます。

※粗飼料:家畜に与える飼料の中で牧草やそれを貯蔵、発酵させたサイレージ等を指す。乳牛などの反芻動物^{はんすう}にとって粗飼料は胃の働きを正常に保ち、乳質をよくするために欠かせない。



播種前の耕起



トラクターによる播種



順調に生育中のスーダングラス
(播種後約1か月)

畜産センター

中学生が牧場の仕事を体験

当センターでは6月20日(木)、21日(金)の2日間、綾部市内中学校の2年生2名に対し、職場体験学習の受け入れを行いました。生徒たちは子牛のほ乳、飼料の給与や乳しぼりといった慣れない作業に戸惑いながらも、真剣に取り組み、熱心に質問していました。

学習後、「健康な牛を育てることの大変さを知り、とても良い体験だった」、「畜産に興味湧き、将来、酪農家を進路のひとつに考えたい」などの感想が寄せられ、生徒たちに畜産のことを理解してもらった貴重な機会となりました。

今後も畜産に興味を持ち、理解を深めてもらうため、児童や生徒を対象とした体験学習を積極的に受け入れます。



乳首を取付けたバケツでは乳



飼料(サイレージ※)の計量

※サイレージとは、家畜に与える飼料の中で牧草を貯蔵、発酵させたもの

畜産センター